

# 重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

【安全で安心して暮らせるまちづくり】

【関連するSDGs】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

・防災、防犯、交通安全の取組が進められ、安全で安心して暮らせるまち

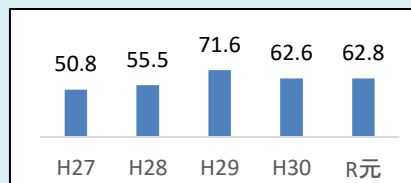
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【防災】

■住吉区が災害に対して安全なまちと感じる区民の割合 <区民意識調査>  
→住吉区が災害に対して安全なまちだと感じている区民は前年度とほぼ横ばいであった。

《その他参考データ》

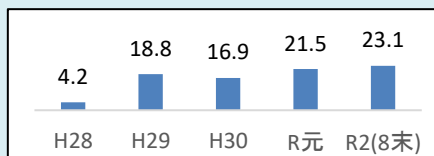
- ・区内災害時避難所37か所  
うちコロナ指定避難所2か所
- ・区内福祉避難所・緊急入所施設:37か所
- ・区内水害時避難ビル:市立小中学校等23校、市営住宅など86棟
- ・福祉避難所協定書締結:23法人37施設
- ・総合防災訓練への参加人数:H28約6,000人 H29約8,000人 H30約9,000人 R元約9,000人
- ・1週間分以上食糧等を備蓄している区民の割合 R元:17.0% <区民意識調査>
- ・台風や大雨等、大規模な風水害が発生する確率が高まっている。
- ・大和川の水位上昇に伴う避難勧告等発令時の避難者数(H25:約460名、H29:約1,010名)
- ・平成30年台風24号に伴う自主避難者数:約204名
- ・大和川が氾濫した際の浸水想定を知っている区民の割合:R元:40% <区民意識調査>



■要援護者支援台帳登録者に占める「個別支援プラン」の作成割合  
→一部の地域で「個別支援プラン」の作成が既に完了している。

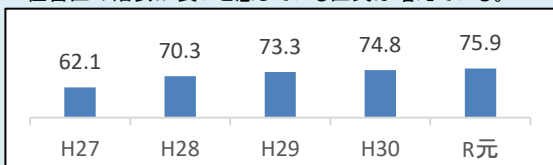
《その他参考データ》

- ・災害時要援護者支援台帳登録者数:5,630人(R2.8末時点)



【防犯】

■住吉区は治安が良いと感じている区民の割合 <区民意識調査>  
→住吉区の治安が良いと感じている区民は増えている。



■全刑法犯発生状況(年別) <住吉警察署管内>  
→刑法犯罪全体は減少傾向である。

年度	刑法犯総数
H27	2,317
H28	2,220
H29	1,621
H30	1,458
R元	1,442
R2(8末)	777

■街頭犯罪7手口発生状況(年別) <住吉警察署管内>  
→住吉区の街頭犯罪件数は年々減少傾向である。

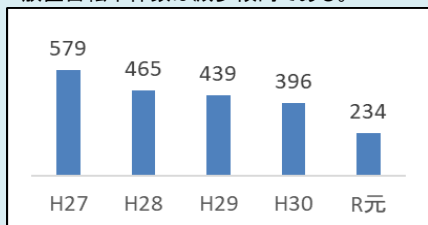
	H27	H28	H29	H30	R元	R2(8末)
街頭犯罪7手口	1,298	1,310	897	803	795	395
路上強盗	3	1	2	1	2	0
ひったくり	29	17	21	5	1	2
自動車盗	35	17	19	23	21	11
オートバイ盗	62	54	29	33	22	21
自転車盗	760	686	574	545	518	236
車上ねらい	283	402	163	134	148	86
部品ねらい	126	133	89	62	83	39

■特殊詐欺被害発生状況 <区民意識調査>  
→特殊詐欺の被害が増えている。

年度	大阪府下		大阪市	
	件数	被害額	件数	被害額
H28	1,633件	約52億円	411件	約18億円
H29	1,597件	約37億円	514件	約11億円
H30	1,624件	約36億円	608件	約12億円
R元	1,807件	約25億円	598件	約8億円
R2(8末)	730件	—	224件	—

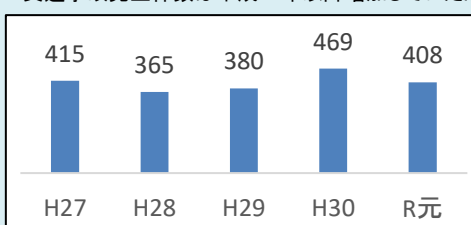
【放置自転車・交通安全】

■区内駅周辺放置自転車台数(建設局11月・2月調査平均)  
→放置自転車件数は減少傾向である。



■住吉警察署管内交通事故発生件数

→交通事故発生件数は平成29年以降増加していたが、令和元年は減少に転じた。



計

画

## 要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

## 【防災】

- ・災害時の要援護者の支援計画である「個別支援プラン」の作成が進んでいない。
- ・町会未加入者やマンション住民など防災の取組に対し無関心な層が少なからず存在する。
- ・コロナ禍における備蓄や避難のあり方などを含めた区民の災害への備えに対する意識の向上が図れていない。
- ・大和川が氾濫した場合の浸水想定を知っている区民の割合が40%に留まっている。

## 【防犯】

- ・全刑法犯罪及び主な街頭犯罪は概ね減少傾向にあるが、「自転車盗」が多く発生している。
- ・近年、特殊詐欺が急増している。

## 【放置自転車・交通安全】

- ・全体として放置自転車は減少しているが、場所により放置自転車の多いところがある。
- ・駐輪場の場所が不足している。
- ・交通事故が増加しており、とりわけ自転車による交通事故が増加している。

## 課題（上記要因を解消するために必要なこと）

## 【防災】

- ・町会ごとに「個別支援プラン」の作成意義の理解の促進を図ることが必要。
- ・多くの区民が防災を意識する取組や、マンション住民への働きかけが必要。
- ・避難所における新型コロナウイルス感染防止のための備蓄物資の充実、コロナ禍における在宅避難の推奨及び地震に対する家庭での備えや水害時の対応について徹底した周知を図ることが必要。
- ・「大和川氾濫等の水害に備えた防災力強化アクションプラン」に基づき、各地域の浸水想定について周知を徹底することが必要。

## 【防犯】

- ・警察署・地域と連携した取組の継続、防犯情報の発信や啓発活動による住民の防犯意識の向上を図ることが必要。
- ・特殊詐欺について、関係機関と連携し、より直接的に高齢者へ周知・啓発することが必要。

## 【放置自転車・交通安全】

- ・建設局の台数調査等を参考に、重点的に放置自転車の多い場所において啓発・撤去を行うことが必要。
- ・駐輪場を増設するとともに、駐車場から駐輪場への転用を進めることが必要。
- ・警察・地域と連携した交通ルールの周知、とりわけ自転車マナーの啓発が必要。

## 戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 1-1 【防災の取組】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の防災体制の確立などにより、区民が災害に対して安全なまちと感じている</li> <li>・災害時、必要な支援を受けることができる要援護者の割合が増加している</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時要援護者支援(地域見守り支援システム)の取組を核に、地域防災の仕組みを構築する。</li> <li>・区民主体の防災訓練等の実施により、区民の防災意識の更なる高揚を図り、行動に結びつける。</li> <li>・災害時避難所の開設、運営について、円滑に行えるよう訓練を充実させる。</li> <li>・広報紙の特集記事やホームページ等を活用し、区民の防災意識の向上を図る。</li> <li>・災害時の情報伝達・収集手段、手法の充実を図る。</li> <li>・すべての区民が、大和川が氾濫した場合の浸水想定を把握し、正しい行動がとれる状態となるよう周知、啓発を行う。</li> </ul>		
自己評価	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住吉区が災害に対して安全なまちと感じている区民の割合:令和5年度までに85%以上</li> <li>・要援護者支援台帳登録者に占める「個別支援プラン」の作成割合:令和5年度までに25%以上</li> </ul>		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
戦略の進捗状況		A:順調 B:順調でない			
		a:順調 b:順調でない			
		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須			

具体的取組 1-1-1 【災害時要援護者(高齢者、障がい者など)支援】

元決算額 10,649千円 2予算額 11,647千円 3算定見込額 13,281千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時要援護者支援台帳を作成するとともに、地域毎にその地域の特性や実情を踏まえた個別の支援体制の再構築として、町会役員に加え民生委員に参加協力を求め、未実施地域への働きかけを実施する。</li> <li>・「個別支援プラン」の作成意義について、町会毎の働きかけの実施(135町会)</li> <li>・台帳登録者への訪問未実施地域への働きかけの実施(5地域)</li> <li>・総合防災訓練や町会での訓練時における要援護者への参加呼びかけ(安否確認訓練)</li> <li>・初回訪問時に個別支援プランの作成依頼(通年)</li> <li>・災害時要援護者に関する防災イベントの開催(年1回)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者支援台帳登録者に対する1回訪問の実施:115町会以上</li> </ul> 【撤退・再構築基準】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者支援台帳登録者に対する1回訪問の実施が110町会未満であれば事業を再構築する。</li> </ul>	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)	

具体的取組 1-1-2

【地域防災力の向上】

元決算額 4,664千円 2 予算額 8,243千円 3 算定見込額 6,715千円

計画	当年度の取組内容 ・全地域との合同による住吉区総合防災訓練の実施(年1回) ・災害救助部長会議を開催するとともに、消防署と連携を図りながら、地域防災リーダーを育成(年1回以上) ・「大和川氾濫等の水害に備えた防災力強化アクションプラン」に基づく取組の実施(通年) ・水害時の避難場所や避難行動の目安等についての周知・啓発の促進(通年) ・新型コロナウイルス感染症を考慮した災害に対する家庭での備えや避難のあり方について区民の意識・関心を高めるため、防災訓練をはじめとしたイベント等での啓発、広報紙、SNSやホームページ等のICTを活用した情報発信の実施(通年) ・マンション住民向け防災意識向上研修及び防災訓練への参加の呼びかけの実施(年4棟) ・新型コロナウイルス感染症の感染防止を含めた災害時避難所用備蓄物資の充実(通年)	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) ・ここ1、2年 お住まいの地域(小学校区)の防災力が向上したと感じている区民の割合:45%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が30%未満であれば事業を再構築する。
	前年度までの実績 <令和元年度プロセス指標> ・ここ1、2年 お住まいの地域(小学校区)の防災力が向上したと感じている区民の割合:43.6% <令和元年度取組> ・総合防災訓練の実施(年1回)(災害時避難所・運営訓練に重きを置いて実施) ・マンション住民向け防災意識向上研修の実施(1棟) ・LEDランタンの各町会への配備、投光器・発電機・ポータブルテレビの市立小中学校への配備 ・NTT柱への浸水想定テープの掲示	

中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績 プロセス指標の達成状況 ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

めざす成果及び戦略 1-2 【防犯の取組】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	・住吉区内の犯罪発生件数が減少し、区民が住吉区は治安が良いと感じている アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) ・住吉区の治安が良いと感じている区民の割合:令和5年度までに80%以上		・街頭犯罪を中心に区民が被害者となる犯罪に対し、これまで193台設置した防犯カメラをなどハード面での防犯対策により、犯罪を抑止するとともに、防犯教室・防犯キャンペーンや、防犯情報発信などソフト面での防犯対策を継続的に実施することにより、区民の防犯意識の向上と犯罪被害を防止する。 ・子どもが被害者となる声かけ事案や性犯罪について、子ども見守り活動や子ども110番の家の周知により、犯罪被害の抑止を図るとともに、各小学校の下校時に合わせて青色防犯パトロール車を通学路に配置させるなど、効果的なパトロールを実施する。 ・特殊詐欺について、高齢者を対象とした教室・キャンペーンを実施するとともに、関係機関と連携し、直接高齢者へ周知を行うなど、被害防止に努める。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別
		A:順調 B:順調でない		
	戦略の進捗状況		a:順調 b:順調でない	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	

具体的取組 1-2-1 【地域安全防犯対策事業】

元決算額 6,694千円 2予算額 6,985千円 3算定見込額 7,422千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	・青色防犯パトロール車による巡回(週5日) ・防犯教室の実施(年間12回以上) ・防犯キャンペーン(年間12回以上) ・警察・地域団体・企業などと連携し特殊詐欺被害防止の取組を継続する。 ・街頭犯罪発生情報等の発信 ・広報紙・ホームページ・Twitterによる情報発信(随時) ・町会掲示板へのポスター掲示(年4回)、町会回覧(年2回) ・すみちゃん通信(子ども向け情報)の発行(年3回) ・すみちゃんニュース(防犯・交通安全)の発行(年12回) ・子ども110番の家について広報紙で周知(年1回) ・子ども見守り活動支援 子どもの見守り隊連絡会の開催(年2回) 校区別意見交換会の開催(各小学校1回、計14回) ・防犯カメラによる防犯対策 ・機種更新(25台) ・防犯カメラのより効果的な場所へ移設を含めた維持管理(193台)	・犯罪発生件数(全刑法犯):対前年比1%削減 【撤退・再構築基準】 ・上記件数について、前年比10%増加であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 <令和元年度プロセス指標> ・区内犯罪発生件数(全刑法犯):1,442件(対前年比1.1%削減) <令和元年度取組> ・青色防犯パトロール車による巡回(週5日) ・防犯教室の開催(35回)・防犯キャンペーンの開催(33回) ・子ども110番の家協力家庭等:1,293件(個人839件:事業所454件) ・子ども見守り隊連絡会の開催(1回)、幹事会の開催(1回)、校区別意見交換会の開催(14回) ・防犯カメラの公設置の実施(12台) ・保守管理業者と連携しての設置済み防犯カメラの維持管理の履行 ・設置済みの防犯カメラの移設の申請を受付

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)



めざす成果及び戦略 1-3 【放置自転車対策・交通安全の取組】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放置自転車が減少し、誰もが安心して通行できる道路空間が確保されている</li> <li>・交通ルールを遵守する交通安全意識の高い区民が増加している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放置自転車問題は、住民のマナーに関わる問題でもあるので、地元住民主体の啓発活動を強化し、自転車を放置しにくい環境を形成していく。</li> <li>・特に放置自転車の多いOsakaMetroあびこ駅周辺や長居駅周辺については、休日撤去や同日複数回撤去など撤去を強化するとともに、駐輪場の整備を進める。</li> <li>・とりわけ放置自転車の多いポイントを特定し、重点的に啓発・撤去を行う。</li> <li>・自転車マナーの向上及び自転車事故防止、高齢者への交通安全啓発、キャンペーン、広報紙等による周知を強化する。</li> </ul>
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度住吉区内の駅周辺放置自転車台数：平成30年度比20%削減（建設局実施自転車利用実態調査）</li> <li>・住吉区内交通事故発生件数：令和5年度までに300件以下</li> </ul>	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度   個別   全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A：順調 B：順調でない	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	

具体的取組1-3-1 【放置自転車対策（啓発・撤去等）】

元決算額 24,551千円 2 予算額 30,401千円 3 算定見込額 52,654千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティビジネスの手法を活用した協働パートナー事業の実施（OsakaMetroあびこ駅・南海粉浜駅周辺）（通年）</li> <li>・特に放置自転車の多い駅周辺に啓発指導員の配置（OsakaMetro長居駅・阪堺我孫子道駅・南海住吉大社駅）（通年）</li> <li>・地元地域や商店街と連携し、啓発活動を放置自転車が多い場所を重点的に実施（月1回）</li> <li>・区内小学生による児童絵画を活用した啓発の実施（全作品掲示、放置自転車の多い場所へ路面シート貼付）</li> </ul> </li> <li>・撤去等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・放置自転車台数を考慮しながら効果的な撤去の実施（区内11駅周辺）</li> <li>・OsakaMetroあびこ駅・長居駅において、休日撤去を実施（月1回）</li> <li>・協働パートナー事業と連携した撤去・啓発の実施（月1回以上）</li> <li>・OsakaMetroあびこ駅においては民間駐車場の自転車駐輪場への転用を働きかける（通年）</li> <li>・放置自転車の多い駅周辺について、自転車駐輪場を整備（1箇所以上）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OsakaMetroあびこ駅、長居駅周辺の放置自転車台数：対前年度比5%削減（建設局実施自転車利用実態調査）</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記台数が前年度比増加であれば、事業を再構築する。</li> </ul> <p>前年度までの実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〈令和元年度プロセス指標〉</li> <li>・地下鉄あびこ駅、長居駅周辺の放置自転車台数（建設局実施自転車利用実態調査）：95台（対前年度比61.1%削減）</li> <li>〈令和元年度取組〉</li> <li>・コミュニティビジネスの手法を活用した協働パートナー事業の実施（地下鉄あびこ駅・南海粉浜駅周辺）（通年）</li> <li>・啓発指導員の配置（地下鉄あびこ・長居・阪堺我孫子道駅）（通年）</li> <li>・地元地域や商店街と連携した啓発活動の実施（月1回）</li> <li>・商店街のイベントにあわせて啓発活動の実施（年3回）</li> <li>・児童絵画を活用した啓発の実施（全673作品を駅、区役所に掲示、長居駅周辺へ路面シート貼付10枚）</li> <li>・放置自転車台数を考慮しながら効果的な撤去の実施（区内11駅周辺）</li> <li>・地下鉄あびこ駅・長居駅において、休日撤去や同日複数回撤去の実施（月1回）</li> <li>・協働パートナー事業と連携した撤去・啓発の実施（月1回以上）</li> <li>・地下鉄あびこ駅周辺自転車駐輪場の整備（55台）、民間駐車場の自転車駐輪場への転用の働きかけ</li> </ul>

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</li> <li>②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）

具体的取組1-3-2

【交通安全の取組】

		元決算額	53千円	2 予算額	18千円	3 算定見込額	18千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地域、小中学校、幼稚園等の要請に応じて、警察と連携し、講話や体験型教育（自転車安全講習等）、ペーパースートを活用した交通安全啓発事業の実施（年12回以上）</li> <li>◎春、秋の全国交通安全運動期間を中心に、警察、地域等と連携した交通安全キャンペーンや各地域における信号守ろうキャンペーンの実施（年12回以上）</li> <li>◎交通事故防止の基本となる交通ルールの遵守について、広報紙や電柱等を活用した啓発の実施（通年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内交通事故発生件数：対前年比5%削減</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区内交通事故発生件数が対前年比10%増加であれば、事業を再構築する。</li> </ul> <hr/> <p>〈令和元年度プロセス指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区内交通事故発生件数：408件（対前年比13.0%減）</li> </ul> <p>〈令和元年度取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全啓発事業の実施（10回）</li> <li>・交通安全キャンペーン 30回</li> <li>・広報紙（3月号）や電柱（更新550本）を用いた啓発</li> </ul>					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<p>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③：撤退・再構築基準未達成</p>	<p>ア：有効であり、継続して推進</p> <p>イ：有効でないため、取組を見直す</p> <p>一：プロセス指標未設定（未測定）</p>					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
<p>①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③：撤退・再構築基準未達成</p>		<p>ア：有効であり、継続して推進</p> <p>イ：有効でないため、取組を見直す</p> <p>一：プロセス指標未設定（未測定）</p>					
戦略に対する取組の有効性							

# 重点的に取り組む主な経営課題

## 経営課題2

【高齢者、障がい者等だれもが心地よく暮らせるまちづくり】

【関連するSDGs】



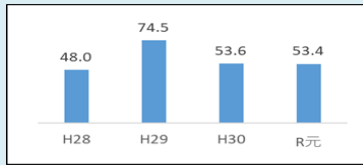
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

・地域の様々な福祉的課題の解決に取り組める環境づくり、区民の健康づくりの取組が進められ、だれもが心地よく暮らせるまち

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

### 【地域福祉の推進】

■高齢者や障がい者をはじめ誰もが安心して暮らせるまちと感じる区民の割合（区民意識調査）  
→安心して暮らせると感じる割合は29年度だけ高く、その他の年度は約5割程度である。



(参考)

○65歳以上人口（平成27年国勢調査より）

・高齢者人口が増え続けている。

	住吉区	大阪市	全国
高齢者数	41,553人	668,698人	3,387万人
高齢化率	27.2%	25.3%	26.6%

○住吉区年齢別人口割合（国勢調査より）（）内は全国平均

	0-14歳	15-64歳	65歳以上
平成17年度	13.1%(13.8%)	65.3%(66.0%)	21.6%(20.2%)
平成22年度	12.4%(13.1%)	63.4%(63.9%)	24.2%(23.0%)
平成27年度	11.9%(12.6%)	60.9%(60.8%)	27.2%(26.6%)

○単身高齢世帯割合（平成27年国勢調査より）

・とりわけ、単身高齢者の割合が全国に比べて多い。  
住吉区:41.5% 全国27.3%

○障がい者手帳交付台帳登録者

・障がい者手帳の所持者が増え続けている。

	身体	療育	精神
平成27年度	9,796人	1,493人	2,110人
平成28年度	9,816人	1,561人	2,302人
平成29年度	9,860人	1,618人	2,430人
平成30年度	9,874人	1,686人	2,651人
令和元年度	9,840人	1,763人	2,844人

○要介護認定者数

・要介護者数が増え続けている。

	要介護3	要介護4	要介護5	計
平成27年度	1,267	1,222	882	計3,371人
平成28年度	1,300	1,354	965	計3,619人
平成29年度	1,405	1,401	936	計3,742人
平成30年度	1,480	1,485	993	計3,958人
令和元年度	1,379	1,412	1,042	計3,833人

○地域包括支援センター相談延件数

・包括への相談件数が多い。

平成26年度18,670件 平成27年度19,368件 平成28年度17,192件 平成29年度19,193件 平成30年度20,737件 令和元年度26,536件

### 【健康推進】

■平均寿命と健康寿命＜厚生労働省 平成28年＞

→平均寿命と健康寿命の差である「日常生活に制限のある期間」が長い。

	平均寿命	健康寿命	差
男	80.98	72.14	8.84
女	87.14	74.79	12.35

■特定健診受診状況

→国に比べて、特定健診の受診率が低い。

	住吉区	大阪市	国(市町村国保)
H27	23.6	21.6	36.3
H28	24.5	22.0	36.6
H29	24.7	22.6	37.2
H30	25.4	23.1	37.9



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【地域福祉の推進】

- ・単身高齢者や高齢者のみの世帯が増加している。地域のコミュニティ意識の希薄化が進んでおり、地域からの孤立も進んでいる。
- ・福祉課題が複雑化・多様化・深刻化するなか、複合的な課題を抱えた要援護者など、既存の縦割りの仕組みでは解決できない問題が生じている。
- ・地域活動協議会・民生委員児童委員協議会・介護保険関係事業所など地域には多様な主体があるが、仕組みとしてつながっていない。

【健康推進】

- ・平均寿命と健康寿命の年数に大きな差があるが、健康を意識して何らかの健康づくりに取り組んでいる区民の割合が低く、特定健診の受診率も国に比べて低い。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【地域福祉の推進】

- ・身近な地域において日常的に高齢者・障がい者等を見守る仕組みづくりが必要。
- ・複合的な課題を抱えた要援護者などに対応するためには、地域と行政が一体となって、地域の社会資源のネットワーク強化を図ることが必要。
- ・地域と専門機関等が一堂に会し、課題解決に向けた連携の仕組みづくりが必要。

【健康推進】

- ・いつまでも健康を保ちいきいきと暮らせるよう、健康づくりのサポート・啓発や、病気の予防のための検診（健診）の受診率向上に向けた受診勧奨を行っていくことが必要。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 2-1 【地域福祉の推進】

計画	めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	・高齢者・障がい者をはじめ誰もが安心して暮らせるまちと感ずる区民の割合が増加している アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・高齢者・障がい者をはじめ誰もが安心して暮らせるまちと感ずる区民の割合：令和5年度までに80%以上	・社会的孤立を防ぐため、地域の人たちで顔の見える関係・助け合う関係づくりを進める。 ・地域包括支援センターとCSW（コミュニティソーシャルワーカー）、区役所が密接な連携を図りながら複合的な課題解決へ向け、身近な地域での相談体制づくりや高齢者・障がい者・児童など専門職間のネットワークづくりを進める。 ・地域住民や地域の専門職・専門機関など多様な主体が集まり、地域の理想像を共有し、その実現に向けた話し合いの場を開催し、全地域で小地域福祉計画の策定を進める。
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体 A: 順調 B: 順調でない
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない
	課題	※有効性が「イ」の場合は必須
		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 2-1-1 【豊かなコミュニティづくり】

		元決算額 36,642千円	2 予算額 36,812千円	3 算定見込額 36,814千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）		
	・地域見守り支援システム構築に向けた取組を行う。 1) 「地域見守り相談室」において次の業務を実施する。 ・既存の福祉サービスだけでは対応が困難な事案に係る相談業務 ・災害時における要援護者支援台帳への登録受付、名簿の調製、個別支援プラン作成にかかる相談業務等 2) 4つの包括圏域ごとにCSW（コミュニティソーシャルワーカー）を1名配置し、要援護者への積極的な訪問（アウトリーチ）を行い、身近な地域での相談や支援を行う。	・地域見守り相談室における相談や支援件数：5,000件以上 ・CSWがアウトリーチを行った件数：270件以上 【撤退・再構築基準】 ・上記目標の80%未満であれば、事業を再構築する。		
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）		
	課題	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
自己評価	当年度の取組実績	課題		
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）		

具体的取組2-1-2

【複合的な課題解決へ向けた相談体制及びネットワークの構築】

		元決算額	— 円	2 予算額	— 円	3 算定見込額	— 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・つながる場の参加者アンケートを実施し「顔の見える関係づくりができた、もしくはそのきっかけができた」と感じた割合：80%以上  【撤退・再構築基準】 ・上記目標の60%未満であれば、事業を再構築する。  前年度までの実績 ・令和2年度新指標					
	プロセス指標の達成状況						
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
中間振り返り	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					
	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須						
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況						
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組2-1-3

【小地域福祉計画の策定支援】

		元決算額	193千 円	2 予算額	297千 円	3 算定見込額	369千 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・地域座談会の参加者にアンケートを実施し「地域の福祉について見直す良いきっかけとなった」と感じた参加者の割合：80%以上  【撤退・再構築基準】 ・上記目標の60%未満の場合、事業を再構築する。  前年度までの実績 <令和元年度プロセス指標> ・地域の福祉について見直す良いきっかけとなったと感じた参加者：95.9%  <令和元年度取組> 地域座談会の開催：5地域					
	プロセス指標の達成状況						
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
中間振り返り	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					
	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須						
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況						
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					

めざす成果及び戦略 2-2 【区民とともにすすめる健康づくり】

計画	めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	・高齢になっても、住み慣れた地域でいきいきと自立した生活を過ごせる ・疾病の早期発見・早期治療に努めることにより区民の健康寿命の延伸が図られている		・高齢になっても住み慣れた地域で生活が続けられるように、適度な筋力運動や認知症予防活動を継続することにより、要介護状態を予防し、健康寿命の延伸を図る。 ・生活習慣病やがんに関する知識をはじめ健診の重要性を理解してもらうための情報や健診情報の提供を積極的に行い、健診の未受診者に対して幅広く受診勧奨を行う。また医療機関・地域団体等との連携を図り、効果的・効率的な受診勧奨を行う。	
自己評価	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	・運動や食事など健康を意識して何らかの健康づくりに取り組んでいる区民の割合：令和5年度までに65%以上 ・特定健康診査の受診率：令和5年度までに26.5%以上		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
戦略のアウトカム指標に対する有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		
アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
戦略の進捗状況		a：順調 b：順調でない		

具体的取組2-2-1 【地域における介護予防の推進】

		元決算額	283千円	2予算額	294千円	3算定見込額	294千円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	・介護予防に資する住民主体の集いの場として、「いきいき百歳体操」の普及、活動支援を行う。 ・実施箇所数：36箇所 ・「いきいき百歳体操」の普及支援のため、立ち上げ地域に対して、おもりやDVDの貸与（通年） ・新規立ち上げ時（お試し実施含む）体操の意義説明、実技指導等の実施（通年） ・継続実施地域への支援（体力測定、実技確認）（通年） ・いきいき百歳体操リーフレットの配付（通年） ・いきいき百歳体操サポーター養成講座の開催（年1回3日コース） ・いきいき百歳体操サポーター交流会の開催（年2回）		・いきいき百歳体操が筋力の維持増進につながっていると感じている参加者の割合：80%以上 【撤退・再構築基準】 上記の割合が60%未満であれば、事業を再構築する。 前年度までの実績 <令和元年度プロセス指標> ・いきいき百歳体操が筋力の維持増進につながっていると感じている参加者の割合：85.6% <令和元年度取組> ・いきいき百歳体操実施箇所数：29箇所 ・いきいき百歳体操サポーター養成講座：年1回（3日コース） ・いきいき百歳体操サポーター交流会：年2回				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）					
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
		①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成					
戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）					

具体的取組2-2-2

【生活習慣病予防の推進】

		元決算額	— 円	2 予算額	— 円	3 算定見込額	— 円
計画	当年度の取組内容	<p>プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関実施分も含めたがん検診・特定健診の受診率：前年度実績より●%以上増加（指標についてはコロナの状況を鑑み検討中）</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】 すべての検診（健診）において前年度比1%以上下回った場合は事業を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>（令和元年度プロセス指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関実施分も含めたがん検診・特定健診の受診率：前年度実績より1.2%増加</li> <li>（胃がん6.2%（+2.6%）、大腸がん9.4%（+1.2%）、肺がん8.6%（+1.9%）、乳がん12.2%（±0%）、子宮頸がん18.4%（+0.5%）、特定健診25.4%（+0.7%））</li> </ul>					
	<p>①：検診や講習会の場等や広報等により、がん検診・特定検診の受診勧奨を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診（年間開催予定72回）、食品衛生講習会（7回）、健康教育/子育て教室（93回）、健康まつり開催時（1回）、がん検診（30回）、特定健診（19回）</li> <li>・行政情報（年間）、リーフレット（年1回）、ホームページ（年1回更新）、広報紙（毎月）、Twitter（随時）</li> <li>・医療機関及び地域団体に協力を依頼し、ポスターやチラシ・リーフレットによる受診勧奨（通年）</li> </ul>						
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<p>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③：撤退・再構築基準未達成</p>	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）</p>					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③：撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）</p>					



# 重点的に取り組む主な経営課題

## 経営課題3

【安心して子育てができ地域の実情にあった教育が展開されるまちづくり】

### 【関連するSDGs】



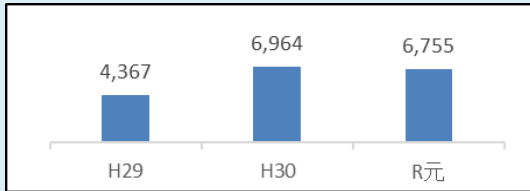
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

・子ども及び子育て世代への支援、学校教育への支援等により、安心して子育てができ地域の実情にあった教育が展開されるまち

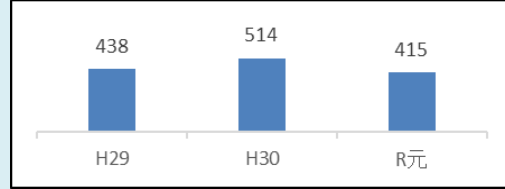
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

### 【子育て支援】

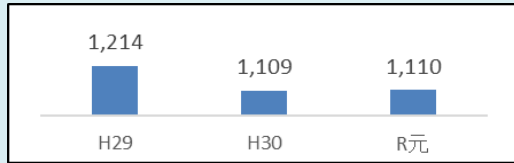
■住吉区子育て世代包括支援センター相談件数  
→住吉区子育て世代包括支援センターへの相談件数は横ばいで高止まりとなっている。



■住吉区児童虐待通告等(左記相談件数の内数)  
→虐待通告件数は依然として多い状況にある。  
※令和元年度より件数の取扱いが変更



■住吉区出生数  
→住吉区の出生数は、平成30年度・令和元年度と横ばいの状況にある。

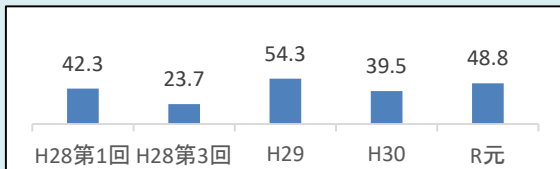


■大阪市ひとり親家庭等実態調査(平成30年度)  
・現在の生活の状況について、母子家庭では65.8%、父子家庭では60.1%が「苦しい」「大変苦しい」となっている。  
・現在困っていることについて、母子家庭・父子家庭とも「経済的なこと」が最も多く、母子家庭は62.6%、父子家庭は47.3%となっている。  
次に「子どもの教育(進学)やしつけのこと」が母子家庭で40.8%、父子家庭で35.6%となっている。

■大阪市の不登校の割合(令和元年度)  
・小学校0.89%(全国0.83%、大阪府0.79%)、中学校5.28%(全国3.94%、大阪府4.04%)と大阪市は全国や大阪府と比較して高い状況にあり、また、増加傾向にある。

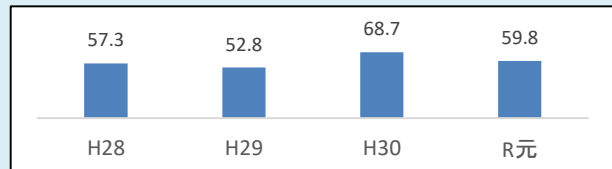
### 【学校教育等への支援】

■区民の意見が学校園の運営に反映されていると感じる区民の割合<区民意識調査>  
→区民の意見が学校園の運営に反映されていると感じる区民の割合が増加した。



### 【人権尊重のまちづくり】

■人権相談件数:H29 8件、H30 3件、R元 2件  
■一人ひとりの人権が尊重されているまちと思う区民の割合<区民意識調査>  
→一人ひとりの人権が尊重されているまちと思う区民の割合は、30年度は7割弱あるが、その他の年度は5割台に留まっている。



■29年3月に策定された教育振興基本計画では、「子どもが安心して成長できる安全な社会の実現」「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」の2つが最重要目標と定められた。

### 【教育コミュニティづくりの推進】

■学校(小・中学校)、地域(生涯学習推進員・はぐみネットコーディネーター)間で連携した取組件数:2件  
■学校・家庭・地域が連携して子どもが育まれていると感じる区民の割合:H30:52.6% R元:61.0%<区民意識調査>

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【子育て支援】

- ・子育て世代包括支援センターへの相談件数や児童虐待の通告件数は依然として多い状況にある。
- ・ひとり親家庭等では経済困窮に陥っている割合や経済的な不安、子育てに関する不安を感じている割合が高い。
- ・不登校の背景には、家庭・学校に関わる人間関係・生活環境をはじめ、児童・生徒・保護者の心身の疾病など多様な原因がある。

【学校教育等への支援】

- ・教育にかかる各種会議の場での意見やその反映状況などの情報が区民に十分に届いていない。

【教育コミュニティづくり】

- ・学校（小・中学校）、地域（生涯学習推進員・はぐみネットコーディネーター）間で連携した取組が少ない。

【人権啓発】

- ・差別事象が依然存在している。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【子育て支援】

- ・少子化の一方で、核家族化が進み、子育てを周りに相談できない保護者等が増えており、こどもに関する相談のニーズは依然高い。相談ニーズや支援ニーズに対して個々対応していく他に、虐待予防のためにも、関係機関と連携して子育てがしやすいと感じるような支援や環境づくりを行うとともに、地域をあげて、まちぐるみでこども・子育て世帯の安全・安心を見守る全区的な機運を醸成することが必要。
- ・経済困窮に対応した取組など、貧困の連鎖を断ち切る取組が必要。
- ・福祉的課題は様々な問題が複雑に絡み合っている場合が多く、学校だけで解決することが難しい場合が多々あることから、教師の気づきを福祉制度や地域による支援につなぐ仕組みが必要。
- ・不登校への支援にあたっては、福祉的な観点からその課題にアプローチすることが必要。区役所職員やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、民生委員・児童委員、主任児童委員、保護司など、専門的な知識を有する者が連携し、解決に向けた支援を行っていくことが必要。

【学校教育等への支援】

- ・区民の意見が学校園の運営に反映されていると感じる区民の割合は48.8%にとどまるため、さらに保護者や区民の意見を教育行政に反映できる仕組み（総合教育会議、教育行政連絡会、学校協議会）とその取組の現状について、丁寧に発信していくことが必要。
- ・区が持つ資源を活用し、学校や学校外の取組への支援が必要。

【教育コミュニティづくり】

- ・生涯学習・地域教育を推進する委嘱ボランティア（生涯学習推進員、はぐみネットコーディネーター）の活動を支援、両者の連携を推進し、取組の充実を図ることが必要。

【人権啓発】

- ・人権問題は一人ひとりに深く関わる身近な問題であることに気づき、さまざまな人権に関わる正しい理解・認識を深め、態度や行動へと結びつけられるよう、啓発を進めていくことが必要。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 3-1 【こども及び子育て世代への支援】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定> ・安心して子育てできる環境づくりが進んでいる。	戦略（中期的な取組の方向性）		
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・安心して子育てができると感じる区民の割合：令和5年度までに75%以上	・子育て支援に関する情報提供の機会の増加など充実を図る。 ・安心して子育てができるよう、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない相談・サポート体制を充実させる。 ・貧困の連鎖を断ち切るため、こどもたちに学びの機会・場の提供を行う。 ・専門家や地域の関係機関、子育て支援団体等と連携し、課題を抱えるこどもや若者、家庭への支援を行う。		
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A：順調 B：順調でない			
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組3-1-1 【子育て支援の推進】

元決算額 9,635千円 2予算額 11,157千円 3算定見込額 11,368千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）		
	・子育て世帯が子育て支援施設の詳細情報を収集できるよう、区内子育て支援機関が子育て世帯に対し、直接取組内容を子育て世帯に伝える場「すみちゃん子育て情報フェア」を実施するとともに、会場に来場できなかった区民に対し、住吉区役所ホームページ上において、「すみちゃん子育て情報フェア」で提供した情報を掲載する（年1回） ・支援機関の連携強化・対応力の向上 ・子育て支援連絡会の定期開催（月1回） ・支援機関を対象とした研修会の開催（年2回） ・乳幼児の発達や学齢期のこどもの発達障がい相談・支援を行う心理相談員の配置（通年） ・子育て支援情報誌の発行（年6回） ・子育てマップの発行（年1回） ・医療機関に協力を依頼し、子育て支援情報誌の掲示（通年） ・SNSやホームページのWEB版「はぐあっぷ」での子育て支援に関する情報発信や、母子手帳交付時面接や乳幼児健診等、保護者が区役所に来庁される機会を捉えた「はぐあっぷ」の周知の実施（通年）	・子育て支援情報を得ることができていると感じる子育て世帯の割合：60%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記の割合が20%未満であれば事業を再構築する。		
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）		
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）		

具体的取組3-1-2

【子育て世代包括支援センターの機能強化】

元決算額 8,138千円 2予算額 14,223千円 3算定見込額 11,737千円

計画	当年度の取組内容 ●「住吉区子育て世代包括支援センター はぐあっぷ」に、助産師・保育士を配置し、健康相談や医療機関等、関係機関との連携を実施(通年) ●SNSやホームページのWEB版「はぐあっぷ」での子育て支援に関する情報発信や、母子手帳交付時面接や乳幼児健診等、保護者が区役所に来庁される機会を捉えた「はぐあっぷ」の周知の実施(通年)(再掲) ●2か月児親子の子育て支援「ぴよぴよひろば」の実施(年12回) ●母乳相談会の実施(年22回) ●専門職のアウトリーチによる潜在リスクの掘り起し(通年) ●両親学級の開催(年4回) ●乳児期の親支援のためのプログラムの開催(年5回) ●ペアレント・プログラムの開催(年1回) ●はぐあっぷ「つながりづくり・スキルアップ」応援事業(通年)	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) ・「住吉区子育て世代包括支援センター はぐあっぷ」を利用された保護者の満足度:50%以上(LINEアンケートを活用)  【撤退・再構築基準】 ・上記の割合が25%未満であれば事業を再構築する。
	前年度までの実績 ・令和3年度新指標  <令和元年度取組> ・2か月児親子の子育て支援「ぴよぴよひろば」(年11回) ・母乳相談会の実施(年22回) ・家庭・地域の教育力・子育て力向上講演会の開催(年1回) ・専門職のアウトリーチによる潜在リスクの掘り起し(通年) ・両親学級の開催(年3回) ・乳児期の親支援のためのプログラムの開催(年3回) ・ペアレント・プログラムの開催(年1回:6回コース中4回)	

中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績 プロセス指標の達成状況 ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須  改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

具体的取組3-1-3

【貧困の連鎖を断ち切る取組】

元決算額 6,443千円 2予算額 24,253千円 3算定見込額 23,931千円

計画	当年度の取組内容 ・新生児を養育する支援を要する家庭等に助産師・ヘルパーが訪問支援を行う事業の拡充(通年) ・子どもの朝ごはんの欠食率を改善する取組の実施(通年) ・フードドライブ実施等による区内の子ども食堂における食材調達支援(通年) ・子どもと子育て世代が抱える課題に対し、総合的支援を効果的に行う、「子どもサポートネット事業」を学校と連携して実施(区内全小中学校)(通年) ・経済的に学習環境が整っていない世帯や様々な状況により学習できない中学生の学びあいの場としてすみよし学びあいサポート事業の実施(週2日開催) ・結婚、妊娠・出産、子育て等、将来のライフプランを希望どおり描くためのきっかけづくりとして、助産師等の派遣により各中学校が進める「性・生教育」授業の支援 ・子どもの将来のライフプラン支援事業の実施(区内全中学校)		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) ・子どもの将来のライフプラン支援事業実施後のアンケートにより「自分の将来について具体的に考えるきっかけになった」と答える生徒の割合:80%以上 ・すみよし学びあいサポート事業参加者の出席率:70%以上 【撤退・再構築基準】 ・アンケートに答えた上記生徒の割合が50%未満の場合であれば事業を再構築する。 ・すみよし学びあいサポート事業参加者の出席率:50%未満であれば事業の再構築を行う。
	前年度までの実績 <令和元年度プロセス指標> ・子どもの将来のライフプラン支援事業実施後のアンケートにより「自分の将来について具体的に考えるきっかけになった」と答える生徒の割合:76.5% ・すみよし学びあいサポート事業参加者の出席率:61.6% <令和元年度取組> ・子どもの将来のライフプラン支援事業の実施(区内4中学校) ・すみよし学びあいサポート事業の実施(週2日) ・新生児を養育する支援を要する家庭等に助産師・ヘルパーが訪問支援を行う事業の拡充や、子どもの朝ごはんの欠食を改善する取組などを実施(通年)		
中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)		
自己評価	当年度の取組実績 課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	プロセス指標の達成状況 改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)		



具体的取組3-1-4

【不登校児童・生徒への支援】

		元決算額	15,292千円	2 予算額	21,657千円	3 算定見込額	18,504千円
計画	当年度の取組内容	<p>①社会福祉等の専門知識や技術を有するスクールソーシャルワーカー(SSW)1名を配置し、区内の小中学校に派遣。必要に応じ社会福祉施設等の社会資源との連携を図りつつ、不登校児童・生徒の置かれている様々な環境への働きかけ、支援を実施(通年)</p> <p>②スクールカウンセラー(SC)1名を前年度に引き続き区独自で配置し、子どもや保護者、教職員の相談体制を充実(通年)</p> <p>③不登校やひきこもりで悩む子ども・若者や就労に自信が持てない若者やその家族に対し、相談窓口や居場所を開設することによる支援の実施(通年)</p>					
		<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <p>・SSWを活用して解決を図ろうとした事案:36件以上</p> <p>・不登校やひきこもりで悩む子ども・若者の相談受付件数:350件</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>・SSWを活用して解決を図ろうとした事案の件数が16件未満であれば、事業手法を再構築する。</p> <p>・不登校やひきこもりで悩む子ども・若者の相談受付件数の60%未満であれば、事業手法を再構築する。</p>					
		<p>前年度までの実績</p> <p>〈令和元年度プロセス指標〉</p> <p>・SSWを活用して解決を図ろうとした事案:45件</p> <p>〈令和元年度取組〉</p> <p>スクールカウンセラー(SC)1名を前年度に引き続き区独自で配置し、子どもや保護者、教職員の相談体制を充実(通年)</p>					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
		<p>①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>―:プロセス指標未設定(未測定)</p>					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
		<p>①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>―:プロセス指標未設定(未測定)</p>					

めざす成果及び戦略 3-2 【重大な児童虐待ゼロの実現】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定> ・重大な児童虐待が発生していない	戦略（中期的な取組の方向性）		
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・虐待による死亡事案ゼロの状態の維持	・子育て世帯の身近な相談の場を確保するとともに、見守りが手薄な対象へのアプローチを行い、潜在的リスク把握と必要な支援につなげる。 ・区医師会・歯科医師会と調整し、医療機関と連携したこどもの見守り体制を構築する。 ・地域をあげてまちぐるみでこどもや子育て世帯を見守り支えていく体制を構築する。		
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A: 順調 B: 順調でない			
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組3-2-1 【地域の拠点づくりと潜在的リスクへのアプローチ】

元決算額 ー 円 2 予算額 10,756千 円 3 算定見込額 11,122千 円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）		
	・地域の拠点（地域集会所等）に子育ての専門職（保育士、看護職など）が定期的に巡回し、こどもや子育て世帯を見守る地域ボランティア等への情報提供を通じて、地域における支援力の向上を図り、子育て世帯の身近な相談の場を確保（通年） ・乳幼児健診の狭間期である2歳6か月児を対象に、全家庭への質問書送付等によるポピュレーションアプローチを実施（通年） ・全ての4歳児を対象に、ポピュレーションアプローチの実施（通年） ・要保護児童対策地域協議会（以下「要対協」という。）登録事例の中で、特に潜在的リスクが懸念されるケース及び要対協登録前の段階にあり見守りが手薄なケースへのアプローチを行い、潜在的リスクを把握し、必要な支援につなげる（通年） ・地域拠点での相談や上記対象者へのアプローチを行うなかで、必要に応じて保育所申請や療育利用手続きのサポート等の利用調整を行い、確実かつ速やかに支援につなげる（通年）	・日頃から相談できる体制が整った地域の割合：75%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が50%未満であれば事業を再構築する。		
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）		
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）		

具体的取組3-2-2

【地域・医療連携ネットワークの構築】

		元決算額	— 円	2 予算額	579千 円	3 算定見込額	413千 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・かかりつけ医を把握した要対協ケースについて、医療機関の見守りが行われている割合：50%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が30%未満であれば事業を再構築する。					
	・医療機関との連携のもと、「住吉区版重大な虐待ゼロに向けた地域・医療連携ネットワーク」を構築し、要対協事例の情報提供・見守り依頼を行う。（通年） ・個々のこどものかかりつけ医の把握（乳幼児健診、2歳6か月児のポピュレーションアプローチ実施時） ・「住吉区版重大な虐待ゼロに向けた地域・医療連携ネットワーク」の構築 ・住吉区版重大な虐待ゼロに向けた手引きの作成と関係者への研修の実施	前年度までの実績 ・令和2年度新指標					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組3-2-3

【まちぐるみでの「こども安心」見守りの推進】

		元決算額	— 円	2 予算額	558千 円	3 算定見込額	349千 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・研修受講後のアンケートにおいて、見守りの必要性について理解したと答える割合：80%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記割合が50%未満であれば事業を再構築する。					
	・こどもや子育て世帯にかかわる区内関係機関や地域団体等が協力し、地域をあげてまちぐるみでこどもや子育て世帯を見守り支えていく。（通年） ・見守り体制の構築 ・見守り支援の心得、見立ての仕方や関係機関の連絡先等を記したハンドブックの作成 ・研修会・講演会などの開催	前年度までの実績 ・令和2年度新指標					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					

めざす成果及び戦略 3-3 【学校教育等への支援】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	・保護者や区民の意見が教育行政に反映できていると感じる区民が増加している アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・区民の意見が学校園の運営に反映され、学校や地域の実情に応じた教育が行われていると感じる区民の割合：令和5年度までに70%以上	・教育行政連絡会や総合教育会議等で学校や地域の支援ニーズを把握し、区長自由経費と校長経営戦略予算（区担当教育次長枠）を活用し、住吉区の実情に応じた学校教育支援事業を展開する。

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
				今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組3-3-1 【分権型教育行政の推進】

		元決算額	136千円	2予算額	182千円	3算定見込額	136千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育行政連絡会を定期的に開催し、各学校の実情に応じた教育内容の充実を図るため、区長（区担当教育次長）と学校長が意見交換等を行う。（小学校3回・中学校3回）</li> <li>・区総合教育会議を定期的に開催し、保護者、地域住民等の意見を把握し、区の施策及び事業に適宜反映していく。（年3回以上）</li> <li>・区内学校園で設置されている学校協議会の開催に際し、区役所職員が出席し、運営状況について把握するとともに、運営の補助や区施策に関する情報提供などの支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の支援により、学校における教育内容がより充実したと感じる小・中学校長の割合：80%以上</li> <li>【撤退・再構築基準】</li> <li>・上記の割合が50%未満であれば、事業手法を再構築する。</li> </ul>					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	前年度までの実績					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈令和元年度プロセス指標〉</li> <li>・学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる小・中学校長の割合：90.9%</li> <li>・区内において、学校、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる委員の割合：83.3%</li> <li>・委員を務める学校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる小・中学校の学校協議会委員の割合：86.6%</li> <li>〈令和元年度取組〉</li> <li>・教育行政連絡会の開催（小学校3回、中学校3回）</li> <li>・住吉区総合教育会議の開催（3回）</li> <li>・学校協議会のモニタリング及びサポートの実施（24学校園）</li> <li>・学校協議会委員を対象とした研修会の開催（1回）</li> <li>・学校協議会の会長会議の開催（1回）</li> </ul>					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</li> <li>②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
戦略に対する取組の有効性		<ul style="list-style-type: none"> <li>ア：有効であり、継続して推進</li> <li>イ：有効でないため、取組を見直す</li> <li>一：プロセス指標未設定（未測定）</li> </ul>					

具体的取組3-3-2

【こどもたちの学びへの支援】

		元決算額	— 円	2 予算額	— 円	3 算定見込額	5,307千 円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	◎教育振興基本計画に掲げる2つの最重要目標達成に向け、学校の取組に対する支援を行うとともに、学校外での学習支援の取組を推進 [主な取組] ・学校図書館活性化事業 区内小学校に司書を配置または派遣し、読書指導等を行い学力の向上を図る。(図書館司書3名) ・すみよし学習クラブ こどもの自主学習習慣の定着及び習熟に応じた基礎学力向上を図る [開催箇所3カ所(遠里小野小学校、墨江丘中学校、我孫子中学校)] ・国語力向上事業(漢字検定チャレンジ支援) 小4～6のうち学校が選択する1学年につき、検定を受験できるよう、検定料を支援。	・すみよし学習クラブ参加者アンケートで「受講前より学校の授業がわかるようになった」と回答した参加者の割合:70%以上  【撤退・再構築基準】 ・上記の割合が50%未満であれば、事業手法を再構築する。					
		前年度までの実績 <令和元年度プロセス指標> ・就学前児童への読み聞かせが園での今度の読み聞かせに役立つと答えた園の割合:100% ・英語体験事業参加者アンケートで「おもしろかった」「まあまあおもしろかった」と回答したこどもの割合:83.8%  <令和元年度取組> ・就学前児童への読み聞かせ事業の実施(11回) ・英語体験事業の実施(1回)					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)					

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況						
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)					



めざす成果及び戦略 3-4 【教育コミュニティづくりの推進】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）	
	・区民が、学校・家庭・地域が協働し、学校を核とした住民主体の学校支援や教育コミュニティづくりが進められていると感じている	・生涯学習・地域教育を推進する委嘱ボランティア(生涯学習推進員、はぐくみネットコーディネーター)の活動を支援し、各地域活動協議会が実施する生涯学習ルーム事業、はぐくみネット事業等の活性化を図ることを通して、学校を核とした住民主体の学校支援や地域ぐるみの子育て・教育活動を推進する。	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）		
	・学校・家庭・地域が連携して子どもが育まれていると感じる区民の割合：令和5年度までに60%以上		
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度   個別   全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A：順調 B：順調でない	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	

具体的取組3-4-1 【生涯学習推進員、はぐくみネットコーディネーターの支援】

元決算額 917千円 2 予算額 1,086千円 3 算定見込額 1,147千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校を拠点とした学習機会である生涯学習ルーム事業を充実し、学習の成果の学校園・地域への還元を進めるため、生涯学習推進員の活動を支援する。また、子どもの教育に資する地域におけるネットワークの充実を図るため、はぐくみネットコーディネーターの活動を支援する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習推進員活動成果の発表の支援（年2回以上）</li> <li>生涯学習推進員・はぐくみコーディネーター研修及び会議の開催（年3回以上）で両者の情報共有連携を図る</li> <li>新たな担い手の確保につながるよう、取組内容や重要性について、広報紙等を活用して発信（通年）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習の成果を学校園・地域に還元できたと思う」と回答した生涯学習推進員の割合：60%以上</li> <li>「はぐくみネットコーディネーターの活動により、子どもの教育のための地域のネットワークが前年度に比べて深まったと思う」と回答したはぐくみネットコーディネーターの割合：60%以上</li> </ul>	
		<p>〔撤退・再構築基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記の割合が30%未満であれば、事業手法を再構築する。</li> </ul>	
		前年度までの実績	
		<p>&lt;令和元年度プロセス指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学習の成果を学校園・地域に還元できたと思う」と回答した生涯学習推進員の割合：64.2%</li> <li>「はぐくみネットコーディネーターの活動により、子どもの教育のための地域のネットワークが前年度に比べて深まったと思う」と回答したはぐくみネットコーディネーターの割合：64.2%</li> </ul> <p>&lt;令和元年度取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習推進員活動成果支援（住吉図書館作品展示会・すみよし区文化フェスティバル）</li> <li>はぐくみネットコーディネーター会議・研修の開催（2回）</li> </ul>	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</li> <li>②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

めざす成果及び戦略 3-5 【人権尊重のまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）	
	・区民が住吉区は人権が尊重された住みよいまちであると感じている	・人権啓発推進員や関係団体等と連携し、さまざまな人権課題についての啓発活動を行う。	
計画	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）		
	・一人ひとりの人権が尊重されているまちと思う区民の割合：令和5年度までに80%以上		
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度   個別   全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A：順調 B：順調でない	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	

具体的取組3-5-1 【人権啓発推進事業】

元決算額 325千円 2予算額 411千円 3算定見込額 411千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsを踏まえ、部落差別解消推進法など人権3法をはじめさまざまな人権課題に対する意識・関心・気づきを高めるため、区民まつりをはじめとしたイベント等での啓発、情報発信を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>各種イベントでの啓発ブースの設置、区役所庁舎などでのポスター・パネル展示（年5回以上）</li> <li>広報紙及びホームページでの情報発信（年3回以上）</li> </ul> </li> <li>LGBTなどの性的少数者に対する理解を深め、偏見や差別意識をなくすため、当事者の声を聞くなど、研修などの取組や関係機関・団体への働きかけ・支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>職員向けの研修（年2回以上）</li> <li>区民向けの学習会（年1回以上）</li> <li>「就職差別撤廃月間」における企業及び区民向け啓発の実施（年1回以上）</li> <li>区内市立小中学校に対する研修等の実施（年1回以上）に向けた働きかけ・支援（通年）</li> </ul> </li> <li>様々な人権課題に親子で触れることのできる啓発イベントの開催（年1回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権に関する区取組や啓発が人権を考えるきっかけとなった区民の割合：50%以上</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記目標が30%未満であれば、事業手法を再構築する。</li> </ul>	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）	
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		
		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）	

# 重点的に取り組む主な経営課題

## 経営課題4

### 【歴史・文化を活かした魅力あるまちづくり】

【関連するSDGs】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

・歴史、文化が伝承され、区民が区に愛着を感じている魅力あるまち

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

#### 【歴史・文化】

■住吉区には歴史と伝統があると感じる区民の割合：58.8%

■地域の活性化、まちづくりの推進に取り組むべき課題と認識する区民の割合：32.9%

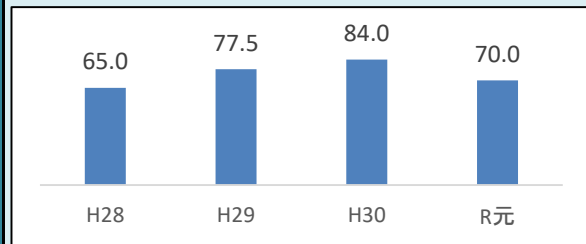
＜以上、平成25年3月大阪市発行『地域活動・地域課題に関する住民の意識調査』より、住吉区民の意識を抜粋＞

■住吉区に魅力を感じる区民の割合＜区民意識調査＞

→住吉区に魅力を感じる区民の割合は、7割程度である。

■住吉区に魅力を感じる区民の割合（年代別）＜区民意識調査＞

→住吉区に魅力を感じる区民の割合は、年代によって差があり、若い世代ほど低い傾向にある。



#### ■特定空家等の通報件数

平成28年度	23件
平成29年度	24件
平成30年度	42件

#### ■空家率（住宅・土地統計調査 平成30年）

住吉区	20.0%
大阪市	17.1%
全国	13.6%

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

#### 【歴史・文化】

・全体として、住吉区に魅力を感じている人の割合は7割程度であるが、年代別に見ると60歳代以上に比べ18～30歳代で低くなっており、魅力を感じない人の割合が約3割となっている。

#### 【空家等】

・空家等に対する関心が高まっている。  
・空家が増加している。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

#### 【歴史・文化】

・若年層啓発に有効とされるSNSやインターネットに重点を置き、引き続きまちの魅力を発信していくことが必要。

・次代を担うこともたちを含めた若年層を含め、より多くの人が住吉区に魅力を感じ、住み続けたいと思えるように住吉区の歴史・文化を伝承していくことが必要。

#### 【空家等】

・是正の取組が進んでいることを広報紙やホームページ等で周知していくことが必要。  
・特定空家等の発生予防や空家等の利活用の取組を進めることが必要。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

評価

めざす成果及び戦略 4-1 【歴史・文化を通じた地域の活性化】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	・区民が、住吉区には歴史・文化があり、魅力があると感じている アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・住吉区に魅力を感じる区民の割合：令和5年度までに各世代90%以上	・住吉区の歴史・文化の発信を積極的に行うことにより、区民には住吉の歴史・文化についてより深く認識してもらい、外国人や区外の人には住吉の魅力を感じ、区外からの集客を増やす。 ・比較的魅力を感じる割合の低い傾向にある若い世代へ向けた事業を行い、底上げをめざす。

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	A：順調 B：順調でない		
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	

具体的取組4-1-1 【歴史的資産を活かした文化観光振興事業による地域の活性化】

元決算額 1,869千円 2予算額 2,113千円 3算定見込額 2,468千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的資産を活かした地域の活性化に向け、次の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史・文化の発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>動画等を活用しSNSやインターネットを活用したPR（随時）</li> <li>ガイドブック等を活用したイベント等でのPR活動（年4回以上）</li> </ul> </li> <li>地域の魅力発信イベントの開催支援（3組以上）</li> <li>友好都市との交流（年1回以上）</li> <li>日本遺産を活用したイベント等の開催（年1回以上）</li> <li>歴史・文化に関する出前授業を小学生を対象に開催（年8校以上）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住吉区の歴史・文化に関連する情報にふれたことのある区民の割合：60%以上</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記の割合が30%未満であれば、事業を再構築する。</li> </ul>

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）

めざす成果及び戦略 4-2 【空家等対策の推進】

計画	めざす状態<概ね3~5年を念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	・空家対策の推進により、特定空家等が是正・適正管理・利活用されている	・専門家団体・地域団体との連携を強化し、特定空家等の是正及び空家等の適正管理、利活用を促進を図る。 ・空家に関する取組について広報紙等を活用した情報発信を行うとともに、空家問題に関する周知・啓発を進める。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・特定空家等の解体や補修等による是正件数：年間12件以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A：順調 B：順調でない	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	

具体的取組4-2-1 【特定空家等の是正、空家所有者等への意識啓発】

		元決算額	140千円	2予算額	227千円	3算定見込額	227千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>区役所と専門家団体・事業者及び地域団体等と連携し、空家等対策を推進し、地域住民の生活環境の保全を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>空家等対策の相談窓口の設置（通年）</li> <li>特定空家等の是正に向け、通報等を受け付け、現場確認を行い、登記簿等にて所有者を特定し、助言・指導等を実施（通年）</li> <li>不動産無料相談会の実施（月1回）</li> <li>不動産関係団体への空家情報の提供による特定空家等対策の推進（通年）</li> <li>住吉区の空家の発生予防及び適正管理、利活用の促進に向け、関連セミナーの開催やリーフレットによる啓発の実施（年3回）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定空家等の解体や補修等による是正件数：12件以上</li> <li>専門家団体との連携により是正された件数：1件以上</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記の件数を下回れば、事業を再構築する。</li> </ul> <p>前年度までの実績</p> <p>（令和元年度プロセス指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定空家等の解体や補修等による是正件数：17件</li> <li>専門家団体との連携により是正された件数：2件</li> </ul> <p>（令和元年度取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空家等対策の相談窓口の設置（通年）</li> <li>宅建協会（2団体）へ事案を相談（11件）</li> <li>事業者と連携しての空家セミナーの実施（10月、1月）</li> <li>不動産無料相談会の実施（月1回）</li> </ul>					
	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況						
		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</li> <li>②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</li> <li>③：撤退・再構築基準未達成</li> </ul>					
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す 一：プロセス指標未設定（未測定）					



# 重点的に取り組む主な経営課題

## 経営課題5

【自律的に地域活動が展開される活力あるまちづくり】

【関連するSDGs】

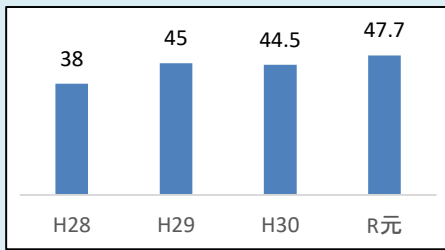


めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

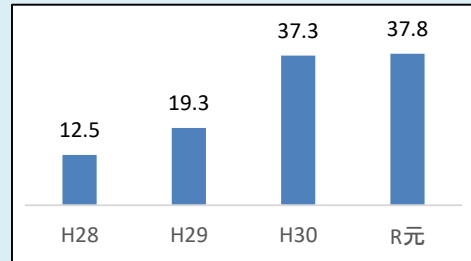
・自律的に地域活動が展開される活力あるまち

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

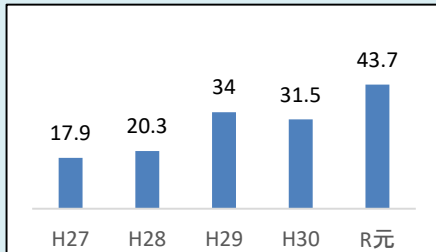
■地域で日頃から「声かけ」などが行われているか  
 〈大阪市市民局区民アンケート調査〉  
 →声かけが行われていると感じる区民は2分の1程度にとどまっている



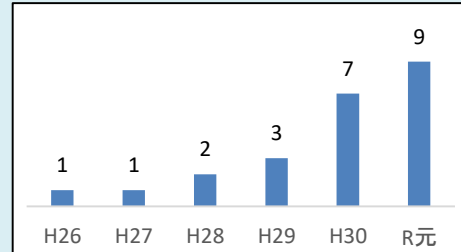
■地域活動協議会の認知度〈大阪市市民局区民アンケート調査〉  
 →認知度は上昇傾向にある



■地域活動に参加しやすいよう支援体制等の環境が整えられていると感じる区民の割合〈区民意識調査〉  
 (お住いの地域における様々な地域活動に、気軽に参加できると感じる区民の割合)  
 →地域活動に気軽に参加できると感じる区民は4割程度にとどまっている



■コミュニティビジネス(CB)/ソーシャルビジネス(SB)実施件数  
 ・放置自転車対策  
 ・広報すみよし配布  
 ・コミュニティ回収  
 →実施件数は増加している



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【つながりづくりの促進】

- ・マンションの増加、生活様式や価値観の多様化により、近所同士のつきあいが希薄になってきている。
- ・地域活動に参加するきっかけとなるイベントなどの周知が不十分である。

【地域活動協議会による自律的な地域運営の促進】

- ・地域活動協議会の認知度は上昇傾向にあるものの、まだまだ低く、理念や活動が認識されていない。
- ・地域の実情に応じて、地域課題を自律的に解決できるような支援が十分でない。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【つながりづくりの促進】

- ・近所に住む人同士のつながりづくりを強化するために町会加入促進への支援が必要。また、マンション内でのつながりづくり、マンションと自治会・町内会とのつながりづくりが必要。
- ・誰もが気軽に地域活動に参加できるような広報活動、情報発信を行うことが必要。また、若い世代も含め住民が参加しやすくなる活動の促進が必要。

【地域活動協議会による自律的な地域運営の促進】

- ・地域活動協議会の認知度向上のための情報発信が必要。
- ・全地域一律ではなく、地域の実情に応じた最適な支援が必要。

計画

自己評価

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括



めざす成果及び戦略 5-1 【つながりづくりの促進】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	・近所に住む人同士が顔見知りとなり、日頃から、「声掛け」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」が行われている ・若い世代を含むあらゆる世代の住民が気軽に地域活動に参加し、多くの住民参加により自律的に地域運営が行われている アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・日頃から、「声掛け」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」が行われていると感じる区民の割合：令和5年度までに60%以上 ・住んでいる地域において、様々な地域活動に気軽に参加できると感じる区民の割合：令和5年度までに45%以上	・近所に住む人同士が集まり、福祉や防災といった身近な課題に気づき、日常から顔見知りになり、つながっていることの大切さを感じてもらえるよう、防災訓練などの機会を捉えて啓発を行う。 ・マンション内でのつながりづくり、マンションと町会等とのつながりづくりを促進する。 ・新たな住民どうしのつながりづくり促進のための「場」や「機会」の創出を図り、若い世代やこれまで地域の活動と関わりが少なかった人たちが、地域活動に参加するきっかけとなる「行ってみたい」と感じる事業を推進する。 ・誰もが気軽に地域活動に参加してもらえるような広報活動、情報発信を行う。

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
				今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	A：順調 B：順調でない			
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組5-1-1 【人と人とのつながりづくり】

		元決算額	— 円	2 予算額	— 円	3 算定見込額	— 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・災害に備え、ご近所同士のつながりが大切だと感じる区民の割合：60%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記の割合が、40%未満であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 ・令和2年度新指標 <令和元年度取組> ・町会加入促進のチラシを転入パックへ封入（通年） ・Twitter、LINE、Instagramを活用し、若い世代を対象に各地活協の活動情報を発信 ・マンション建設時から管理者等に町会加入の働きかけ（1棟） ・住みます芸人を活用した町会加入動画の制作・放映 ・町会本部（全135町会）に照明器具等を配備し、住民へ周知 ・区内全町会の一時避難場所での避難訓練、安否確認訓練等を実施 ・盆踊りの開催日を周知するチラシを作成し、区役所待合等で配架、広報紙や区ホームページに掲載					
	プロセス指標の達成状況						
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
中間振り返り	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）					
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）					

具体的取組5-1-2

【新たな住民どうしのつながりの「場」「きっかけ」づくり】

元決算額 4,344千円 2予算額 6,922千円 3算定見込額 8,095千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代やこれまで地域の活動と関わりが少なかった人たちのつながりづくりを促進するため、「行ってみたい」と感じる「場」や「機会」を提供・創出する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが気軽に参加できるような文化事業やスポーツ事業の実施(年各1回以上)</li> <li>区民まつりにおいて、地域活動への参加のきっかけとなるような取組の実施(1件以上)。また、YouTube等による配信を実施する。</li> </ul> </li> <li>誰もが気軽に地域活動に参加してもらえるような情報発信を行う。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>NPOや団体等が行っている子ども食堂などの取組について、地域活動協議会会長会で共有(年1回)。また、ホームページ等で情報発信(随時)</li> <li>広報紙やチラシ、Twitter、LINE、Instagram、YouTubeを活用し、世代や対象者に合わせた地域活動の情報発信を行う。(通年)</li> </ul> </li> </ul>	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つながりづくり促進のための地域活動に参加したことがある区民の割合:30%以上</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記の割合が10%未満であれば事業を再構築する。</li> </ul> <p>前年度までの実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度新指標</li> </ul>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない                  ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない                  ③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア:有効であり、継続して推進                  イ:有効でないため、取組を見直す                  ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

中高振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア:有効であり、継続して推進                  イ:有効でないため、取組を見直す                  ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>

自己評価	<p>当年度の取組実績</p>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア:有効であり、継続して推進                  イ:有効でないため、取組を見直す                  ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

めざす成果及び戦略 5-2 【自律的な地域運営の促進(改革の柱4-1)】

計画	めざす状態<概ね3~5年を念頭に設定>	戦略(中期的な取組の方向性)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動協議会をはじめ、市民、NPO、企業などの様々な活動主体が協働し、継続安定的に地域課題の解決が図られている</li> <li>防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどその他地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域ごとの特性や地域課題を把握したうえで、まちづくりセンター等を活用し地域実情に応じたきめ細かな支援を実施する。</li> <li>持続的な活動のための財源確保の手法としてのCB/SB、社会的ビジネス化を的確に支援する。</li> <li>地域活動協議会の認知度向上に向けた情報発信の取組をおこない、地域活動協議会を知っている区民を増やす。</li> </ul>
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各団体により地域の特性や課題に応じた活動が進められていると感じている区民の割合:令和5年度までに60%以上</li> <li>地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合:令和5年度までに90%以上</li> </ul>	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A:順調 B:順調でない	
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	

具体的取組5-2-1 【地域活動協議会への支援】

元決算額 40,442千円 2予算額 40,258千円 3算定見込額 40,258千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動協議会に対し、地域の実情や特性にあった柔軟な地域活動が行えるよう、補助金を一括交付(全12地域)</li> <li>各地域活動協議会の情報共有、情報発信の場として地域活動協議会会長の開催(年10回)</li> <li>地域活動協議会の認知度向上に向けた情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>広報紙において、各地域活動協議会の紹介(年4回)</li> <li>広報板やホームページ、Twitter、Instagram、YouTubeを活用し、各地域活動協議会の活動情報の発信(通年)</li> <li>地域活動協議会による地域情報紙発行の支援(3地域以上)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動協議会を知っている区民の割合:40%以上</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記の割合が30%未満であれば事業を再構築する。</li> </ul> <p>前年度までの実績</p> <p>&lt;令和元年度プロセス指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動協議会を知っている区民の割合:37.8%</li> </ul> <p>&lt;令和元年度取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全12地域に一括補助金交付</li> <li>地域活動協議会の認知度向上に向け、区広報紙や区ホームページ、Twitter、LINE及びInstagramを活用し、各地域活動協議会の活動情報を発信</li> <li>地域活動協議会を対象に、印象に残るわかりやすい広報とするための研修会を実施(1回)</li> <li>地域活動協議会会長と各地域の運営会議で地域活動協議会の準行政的機能・総意形成機能、備えておくべき要件についての説明</li> </ul>

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<p>①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<p>①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組5-2-2

【地域の実態に応じたきめ細かな支援】

		元決算額	15,482千円	2 予算額	12,985千円	3 算定見込額	12,986千円
計画	当年度の取組内容	<p>プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動協議会の構成団体が、地活協の意義や役割を理解し、自らの地域の特性や課題に応じた活動を進めることができていると思っている割合：85%以上</li> <li>・地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に対し地域の実情やニーズに即した支援が実施されていると思う割合：72%以上</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】 上記の割合について、50%未満であれば事業を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>&lt;令和元年度プロセス指標&gt; ・防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどその他地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態であると感じる地域活動協議会構成団体の割合及び区民の割合：構成団体81.0% 区民28.8%</p> <p>&lt;令和元年度取組&gt; ・地域活動協議会広報紙の発行の支援 ・話し合いの場の創出・定着、新たな人材の発掘の支援 ・地域課題の把握、対応の支援</p>					
	プロセス指標の達成状況	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定(未測定)</p>					
中高域の振り返り	当年度の取組実績	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>					
	プロセス指標の達成状況	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定(未測定)</p>					
自己評価	当年度の取組実績	<p>①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成</p>					
	プロセス指標の達成状況	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>					
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定(未測定)</p>					

具体的取組5-2-3

【コミュニティ・ビジネス(CB)／ソーシャル・ビジネス(SB)及び社会的ビジネス化の推進】

		元決算額	—	円	2 予算額	—	円	3 算定見込額	—	円
計画	当年度の取組内容	<p>プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区が関与したCB/SB起業件数及び社会的ビジネス化事業創出件数：3件以上</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区が関与したCB/SB起業件数及び社会的ビジネス化事業創出件数：1件以下であれば事業を再構築する。</li> </ul> <p>前年度までの実績</p> <p>〈令和元年度プロセス指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区が関与したCB/SB起業件数及び社会的ビジネス化事業創出件数：2件</li> </ul> <p>〈令和元年度取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区広報紙配布事業：4月より荏田北地域開始、累計4地域</li> <li>・コミュニティ回収事業：6月より住吉地域開始、累計3地域</li> <li>・コミュニティ回収、広報紙配布事業及びペットボトル回収事業について、地域活動協議会会長会で情報提供</li> </ul>								
	中間振り返り	プロセス指標の達成状況	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない                  ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない                  ③：撤退・再構築基準未達成</p> <p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア：有効であり、継続して推進                  イ：有効でないため、取組を見直す                  ー：プロセス指標未設定(未測定)</p>							
自己評価	当年度の取組実績	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>								
	プロセス指標の達成状況	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ③：撤退・再構築基準未達成</p> <p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア：有効であり、継続して推進                  イ：有効でないため、取組を見直す                  ー：プロセス指標未設定(未測定)</p>								



# 重点的に取り組む主な経営課題

## 経営課題6

## 【区政改革の推進】

### 【関連するSDGs】



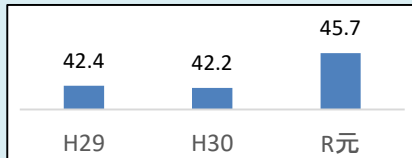
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

・区政に区民が参画して効率的効果的に区政運営が行われ、かつ、区民にも認識されている

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

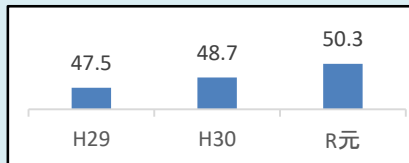
#### 【区政運営への住民参画】

・区役所が、様々な機会を通じて区民の意見やニーズを把握していると感じる区民の割合（市民局アンケート調査）  
→把握していると感じる区民の割合は4割5分程度にとどまっている。



#### 【情報発信の機能強化】

・区の様々な取組（施策・事業・イベントなど）に関する情報が、区役所から届いていると感じる区民の割合（市民局アンケート調査）  
→届いていると感じる区民の割合は5割程度にとどまっている。



#### 【窓口サービスの向上】

・窓口での接客態度や説明について、適切であったと感じている区民の割合（区民意識調査）

令和元年度 79.3%

・令和元年度の「窓口来庁者等に対するサービス格付」では、3年連続で☆☆（民間の窓口サービスの平均的なレベルを上回るレベル）を獲得したものの挨拶や身だしなみ、説明・話し方などで全区平均を下回る項目がある。

・住民情報窓口における繁忙時期の待ち時間（番号札を取ってから、書類等の交付を受けるまでの時間）15分以内の割合は平成29年度73.3% 平成30年度76.7% 令和元年度76.1%であるが、令和2年度は待ち時間15分以内の割合75%以上の達成が困難な状況にある。これは新型コロナウイルス感染症の影響及びマイナンバーカード申請数の激増により窓口繁忙状態が継続していることが原因となっている。

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

#### 【区政運営への住民参画】

・区政運営について、区民の様々な意見やニーズを受けて、見直しを行ったことの情報発信が十分でない。

#### 【情報発信の機能強化】

・区政情報をさまざまな手法で発信しているに関わらず、情報の入手媒体は「特になし」の割合が多く、区政情報に対して関心が低い。

#### 【窓口サービスの向上】

・挨拶や身だしなみ、説明・話し方など基本的な接遇面での改善が十分でない。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度上半期の住民票、印鑑証明書の発行件数は昨年同時期に比べ、それぞれ9.4%、8.5%増となっており、また国のマイナンバーカード取得奨励施策によりマイナンバーカード申請件数は約4.9倍となり、待ち時間の増加につながっている。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

#### 【区政運営への住民参画】

・多様な区民ニーズや意見等を把握し、施策や事業に反映していることについて、情報の発信を強化することが必要。

#### 【情報発信の機能強化】

・区民に必要なだと認識してもらえる情報の広報が必要。

・区民が手に取り、読みたいと思ってもらえる広報紙づくりのほか、ホームページやSNS、広報板など、あらゆる手段・機会を活用した情報発信を行うとともに区政情報を積極的に発信していることの周知が必要。

#### 【窓口サービスの向上】

・適切に説明できるよう各課において業務研修を行うとともに、定期的な接遇状況のセルフチェックや接遇研修を実施することで、職員の窓口対応能力を向上させる必要がある。

・待ち時間について継続して縮減に取り組む。

自己評価

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括



めざす成果及び戦略 6-1 【区政運営への住民参画】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>	戦略(中期的な取組の方向性)
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	A:順調 B:順調でない		

具体的取組6-1-1 【区政会議の開催】

元決算額 624千円 2予算額 764千円 3算定見込額 817千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組6-1-2

【専門会議の開催】

		元決算額	413千円	2予算額	457千円	3算定見込額	273千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・専門会議において、各委員からの意見が、区政に反映されたと感じている委員の割合：80%以上  【撤退・再構築基準】 上記の割合が50%未満の場合は再構築する。					
	・防災及び地域福祉に関し、住吉区が重点的に取り組むべき課題等について、専門的な意見を求めるために会議を開催する。また、その意見を施策や事業に反映し、その内容を周知する。 ・防災専門会議（年3回） ・福祉専門会議（年3回） ・各会議の議論内容の周知（随時）	前年度までの実績 <令和元年度プロセス指標> ・専門会議において、各委員からの意見が、区政に反映されたと感じている委員の割合： 防災専門会議：100% 地域福祉専門会議：91.7%  <令和元年度取組> ・防災専門会議（3回） ・地域福祉専門会議（3回）					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	戦略に対する取組の有効性 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	戦略に対する取組の有効性 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組6-1-3

【意見やニーズの把握と反映・周知】

		元決算額	1.869千円	2予算額	2,421千円	3算定見込額	2,421千円
計画	当年度の取組内容	<p>プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民の意見やニーズを聞き、区政の運営に反映するよう努めていると感じる区民の割合：55%以上</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民の意見やニーズを聞き、区政の運営に反映するよう努めていると感じる区民の割合：30%未満</li> </ul> <p>前年度までの実績</p> <p>&lt;令和元年度プロセス指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度新指標</li> </ul> <p>&lt;令和元年度取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民意識調査の実施（2回）</li> <li>・区広報紙、区ホームページ、Twitter、LINE、Facebook等様々な媒体を活用した区民の意見・ニーズを反映した取組の周知</li> </ul>					
	<p>①「声なき声」など把握しにくいものも含めた多様な区民ニーズや意見・評価を把握し、施策や事業に反映するため、区民意識調査を実施する。また、調査結果を今後の区政運営に反映することにより、PDCAサイクルの徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットによるモニターを対象としたWEBアンケート調査（年2回）</li> <li>・LINEを活用したアンケート調査（年2回）</li> </ul> <p>②意見やニーズの把握と区政への反映状況について計画的に情報発信を実施（通年）</p>						
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<p>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③：撤退・再構築基準未達成</p>						
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア：有効であり、継続して推進</p> <p>イ：有効でないため、取組を見直す</p> <p>一：プロセス指標未設定（未測定）</p>					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<p>①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③：撤退・再構築基準未達成</p>						
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア：有効であり、継続して推進</p> <p>イ：有効でないため、取組を見直す</p> <p>一：プロセス指標未設定（未測定）</p>					

めざす成果及び戦略 6-2 【情報発信の機能強化】

計画	めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	・区民に区の様々な取組(施策・事業・イベントなど)に関する情報が届き、区民が区政に関心をもっている アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・区の様々な取組(施策・事業・イベントなど)に関する情報が、区役所から届いていると感じる区民の割合：令和5年度までに70%以上	・広報「すみよし」について、読みやすい魅力ある紙面を作成することで区民に的確に情報を届ける。また、ホームページからも区政情報を入力してもらえよう工夫する。 ・若い世代・現役世代など、これまで地域活動に関わりの薄かった層の行政や地域活動への関心を高めるため、区公式SNSを広く周知し、積極的に活用して情報発信を行う。
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体 _____ _____ _____ A：順調 B：順調でない
	課題	※有効性が「イ」の場合は必須
	今後の対応方向	※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない

具体的取組6-2-1 【広報「すみよし」・区役所ホームページ・SNSの作成、充実】

元決算額 19,643千円 2予算額 24,695千円 3算定見込額 26,154千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	・広報「すみよし」やホームページ、区公式SNS(Twitter・Instagram・LINE・facebook・YouTube)、広報板、各種会議・事業など、あらゆる手段・機会を活用し、区民に情報を届ける。 ・見出しを分かりやすくするなどの改善を重ね、読みやすい広報「すみよし」の発行及び全戸配布(年12回) ・点字版 広報「すみよし」の作成・希望者への送付(年12回) ・ホームページ、区公式SNS、広報板、各種会議・事業などを活用した情報発信(随時) ・区公式SNSの認知度を向上するため、SNS・ポスター等による周知(通年)	・広報「すみよし」が読みやすいと感じる区民の割合：80%以上 ・区ホームページを見たことのある区民のうち、見やすいと感じた区民の割合：30%以上 ・住吉区役所のSNSを見たことがあると答える区民の割合：25%以上 【撤退・再構築基準】 ・広報「すみよし」が読みやすいと感じる区民の割合：50%未満 ・区ホームページを見たことのある区民のうち、見やすいと感じた区民の割合：15%未満 ・住吉区役所のSNSを見たことがあると答える区民の割合：10%未満 前年度までの実績 <令和元年度プロセス指標> ・広報「すみよし」が読みやすいと感じる区民の割合：82.3% ・区ホームページを見たことのある区民のうち、見やすいと感じた区民の割合は令和3年度新指標 ・住吉区役所のSNSを見たことがあると答える区民の割合：22.8% <令和元年度取組> ・区広報紙の改善(写真の多用、掲載情報を分かりやすく提供するため、令和元年5月号よりお知らせ記事を分類して掲載)
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)

めざす成果及び戦略 6-3 【区民が集う、快適な区役所づくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年を念頭に設定>	戦略(中期的な取組の方向性)
	・来庁者がスムーズに目的の窓口に行き用件を終え、気持ちよく帰っていただける快適な区役所 アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) ・区役所が、相談や問い合わせ内容について適切に対応したと思う区民の割合:令和5年度までに80%以上 ・窓口での接客態度や説明について、適切であったと感じている区民の割合:令和5年度までに80%以上	・窓口・職場改善チームを中心に、関係課、職員が連携して改善に取り組む。

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	A:順調 B:順調でない		
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	

具体的取組6-3-1 【窓口におけるサービスの向上】

元決算額	781千円	2予算額	746千円	3算定見込額	736千円
------	-------	------	-------	--------	-------

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	・全職員を対象とした接客研修を実施するとともに、接客状況セルフチェックシートによる自己点検を実施(年2回以上) ・パソコンやスマートフォンにより、待ち人数や呼出番号を確認できる取組についての認知度を高めるため、案内ポスターを広報板に掲示するとともに、ホームページやTwitterを活用した広報の実施(年10回以上) ・窓口サービス向上の取組(スムーズパス、郵送申請)を広く区民に知ってもらうため、広報紙等で周知(年2回以上) ・待ち時間の縮減対策として、アンケート(年4回)などにより検証を行い、結果を踏まえて手順の改良、人員配置の工夫やOJT、研修会を実施	・来庁者アンケートにおいて、待ち時間や職員の対応が適切であると感じる来庁者の割合:80%以上 ・区役所来庁者に対する窓口サービスに係る民間事業者覆面調査(5満点)での点数:3.5点以上 【撤退・再構築基準】 ・来庁者アンケートにおいて、待ち時間や職員の対応が適切であると感じる来庁者の割合が60%未満の場合は、事業を再構築する。 ・区役所来庁者に対する窓口サービスに係る民間事業者覆面調査(5満点)での点数が3点以下の場合は再構築する。
		前年度までの実績 <令和元年度プロセス指標> ・待ち時間が15分以内の割合:76.1% ・区役所来庁者に対する窓口サービスに係る民間事業者覆面調査(5満点)での点数:3.5点 <令和元年度取組> ・全職員を対象とした接客研修を実施するとともに、接客状況セルフチェックシートによる自己点検を実施(年2回) ・待ち時間の縮減対策として、アンケートなどによる待ち時間の検証の実施(年4回)

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)